

終刊の辞

山口大学は、平成27(2015)年5月30日、創基200周年記念を祝います。文化12(1815)年、長州藩士・上田鳳陽によって山口の地に創設された私塾「山口講堂」が本学の礎です。そして本学は全国の国立大学のなかで、三番目に古い歴史を刻んできました。

以来、明治・大正期の学制を経て、昭和24(1949)年に新制大学として、新たなスタートを切り、今日に至っています。私たち“山口大学人”は、200年の歴史を糧に、これからの200年を見据え、時代の要請と地域の期待に応えるため、全力を尽くしていきます。

さて、近代日本の幕開けにあって、厳しい歴史の波に晒されていた長州の人々は、それゆえに知の力によって、未来に向けて重い扉を押し開きました。そうした先達の営みを振り返るため創刊された『山口大学の来た道』は、第5号をもって終刊します。ここで記録された文面や写真から、時代に翻弄されながらも、知の力によって、社会や地域に貢献する人材を輩出し続けた、本学の歩みを読み取って頂けたのではないのでしょうか。

そこでは、大学の歴史を通して、近代日本社会の動きが浮き彫りにされ、大学を取り巻く環境が著しく変容してきたことも実感されたのではないかと、思います。私たち編集を担った者たちも、教育を通して優れた人材を世に送り出し、研究によって社会の発展に寄与し、地域貢献によって多くの人々と繋がっていくことが、私たち“山口大学人”の使命であることを、あらためて確認することができました。

これからの未来は、文字通り不透明な時代かも知れません。それだけに、200年の歴史のなかで培ってきた、「発見し、はぐくみ、かたちにする」知的探求力が、文字通り活かされる時代に思います。これからの時代にあって、まさに本学200年の歴史が試される時代がやってくるのだ、と考えます。『山口大学の来た道』は終刊しますが、それは同時に〈山口大学が歩む道〉の始まりを意味します。

私たちは、200周年を迎えるにあたって、決意を新たにしています。先達たちの志をしっかりと受け継ぎ、未来に繋げ、日本と世界にあって、本学の役割が一層期待されるために邁進することを。そして文教都市山口の最高学府として、また地域の基幹総合大学として優れた人材を輩出することを通して、郷土山口の発展に貢献することを。

また、アジア大陸にも東南アジアにも近接の地であり、歴史上深い繋がりを持つ山口大学が、21世紀以降の先端大学として、自らの役割を自覚しながら、平和と安定の礎たらんとする熱意をもって、奮闘していくことを。

『山口大学の来た道』編集委員長
瀬戸 厚



吉田キャンパス



小串キャンパス



常盤キャンパス

「山口大学の来た道」

- 第1巻 山口講堂から山口中学へ(平成23年2月)
(平成25年7月改訂)
- 第2巻 山口中学校から県内初の高校創立へ(平成23年9月)
- 第3巻 山口高等商業学校から専門学校誕生まで(平成25年5月)
- 第4巻 山口大学誕生(平成26年2月)
- 第5巻 新制大学としての歩み(平成26年8月)

「山口大学の来た道」編集委員会

編集委員長 瀬織 厚

副委員長 山内 直樹

■制作スタッフ(五十音順)

大田 直子	岡田 隆
金重 幾久美	汐除 ちえみ
撰田 直樹	堂迫 妙子
日高 友江	前坂 祥子
山形 祐美子	和田 祐子



200th
Anniversary
YAMAGUCHI UNIVERSITY

「志」つなぎ伝える
二百年

創基 200 周年

山口大学の来た道 5

—新制大学としての歩み—

2014年

発行
企画・編集

山口大学
山口大学総合図書館内
「山口大学の来た道」編集委員会